

第Ⅳ章 まとめ

厚幌1遺跡は過年度の調査により、アイヌ文化期までの遺構が確認されており、縄文時代においては環境、災害イベントを示唆する報告が成されている(厚真町 2004)。今年度の調査ではアイヌ文化期の道跡を1条検出したが、主体は縄文時代の遺構及び遺物であった。出土する土器は後期初頭の余市式土器が主体を占めるが、前期前葉の土器も少なからず認められる。前期前葉の土器群は今回の調査で底部片が出土していないが静内中野式の範疇であると思われる。この前期土器群の中に器表面が黒色を呈する「胎土に滑石を含む土器」(以下 滑石土器)が出土し、同地域で出土する同様の土器群との関係が示唆される。また、過年度に報告された地滑り堆積物に関連する災害イベントとして、上幌内モイ遺跡対岸の地滑り地形が挙げられる。このように本遺跡を通じて、土器の流通や自然災害についていくつかのデータを提示することが可能となっている。以下に個別に考察を述べる。

1. 胎土に滑石を含む土器について

滑石土器としたものは、胎土に滑石や蛇紋岩などの鉱物を含み、器表面が鈍い光沢を帯び、色調は黒色を呈している。町内ではヲチャラセナイ遺跡、ニタツプナイ遺跡、幌内5遺跡で出土している。中でも上流域で本遺跡に近いヲチャラセナイ遺跡は縄文時代前期後葉の集落で、円筒下層土器d式、大麻V式土器が主体的に出土している。これら土器群の中に本遺跡と同様に滑石土器が少量であるが出土している。両遺跡とも出土量から推定して客体的にもたらされたものである。ヲチャラセナイ遺跡については胎土を偏光顕微鏡観察分析した結果、土器に含まれる鉱物は蛇紋岩で日高地方の可能性が高いという結果を得ている(厚真町 2013a)。このデータに基づくと前期後葉には同地域との交易があったことが考えられるが、縄文時代早期以降、厚幌ダム遺跡群からは富良野盆地系土器が搬入品として各遺跡から出土し、内陸ルートが想定されている。もちろん、富良野盆地系土器の存在で南(海側)からの交易を否定する要素にはならないが、滑石土器についても富良野市、芦別市、滝川市で出土例があることから、同様のルートで本遺跡にもたらされたとも考えられる。そこで、本報告にあたりヲチャラセナイ遺跡(前期後葉)、厚幌1遺跡(前期前葉)の滑石土器と富良野市(三の山3遺跡、学田3区1遺跡)、芦別市(滝里38遺跡)で出土した土器をX線粉末回折分析で比較を行った。滝里38遺跡は土器に含まれる鉱物のみ分析したので他の粘土鉱物との比較はできなかったが、厚真町と富良野地方で出土する滑石土器は「高MgO-低SiO₂グループ」の同一グループに分けられることが明らかとなった(厚真町 ヲチャラセナイ遺跡 第Ⅴ章第5節 印刷中)。また、厚幌1遺跡の土器はクリソタイルを中量含むが、アンチゴライトを含まないため、ヲチャラセナイ遺跡の滑石土器とはやや組成が異なる。しかし、一部の土器片によるものなので確定的とは言えない。滑石土器については厚真も含め出土量はあまり多くないが、黒色で光沢のある手触りと重さは一見土器のそれとは異なる質感を持っているため、見落とししていた可能性も考えられる。

今後、これらの産地も含め縄文の交易についての資料になるような調査を行いたい。

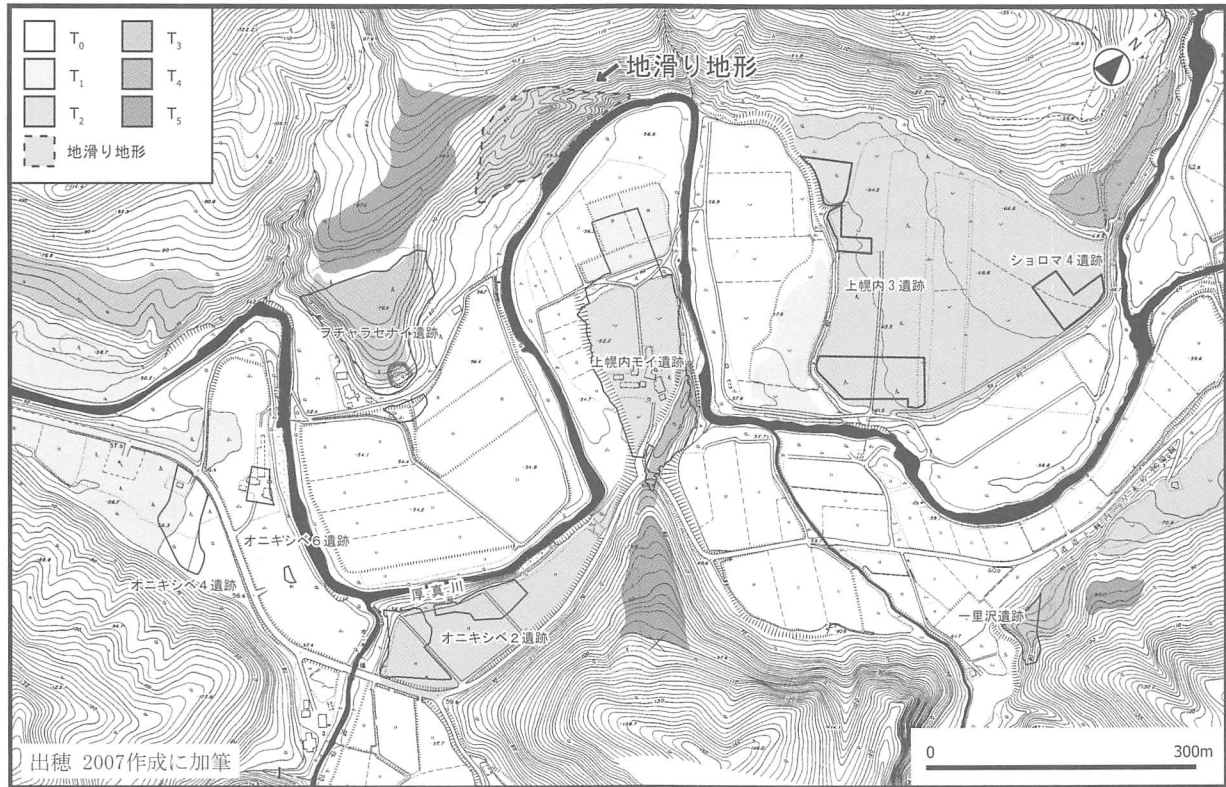
2. 厚真川上流域の地滑り

これまでの厚幌1遺跡で行われてきた調査により、厚真川上流域の災害イベントが明らかになってきた。そこで、同町内の遺跡の中で平成16～19年まで発掘調査を行った上幌内モイ遺跡の調査で少なからず災害に係わると思われる堆積と周辺の環境を紹介したい。

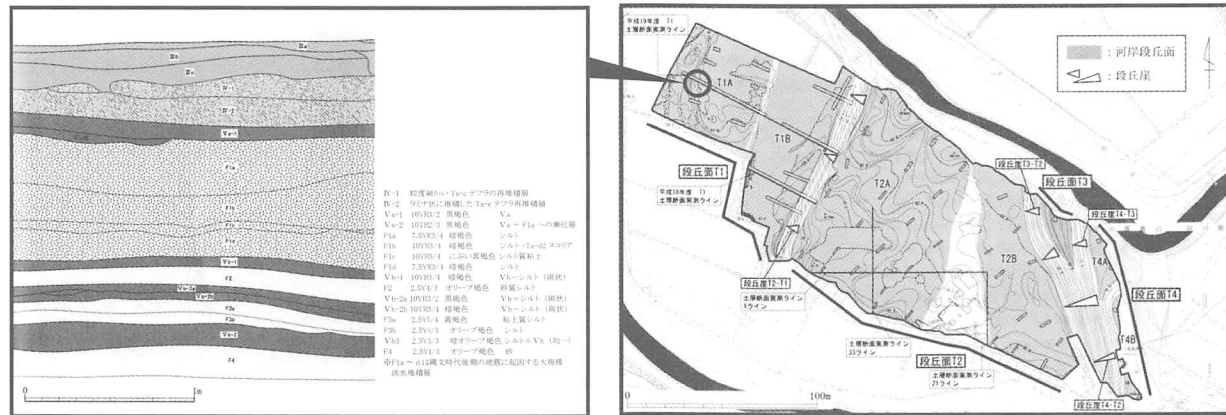
上幌内モイ遺跡の対岸（西側）には沢地形と異なる等高線を示す地点が標高 60～80m の間で認められる（図Ⅰ）。この地点は春や秋、広葉樹の葉が少ない時期に視認することができる。

平成 18・19 年の調査では上幌内モイ遺跡の T₁ 面に地震に起因する洪水堆積物を報告しており（厚真町 2009a）、同面で検出した T ピット群もシルト化した V 層と洪水堆積シルトを被覆している。今回調査した厚幌 1 遺跡の T ピットも地滑り堆積物を被覆していることから、ほぼ同時期の自然災害が起因していると考えられる。

2 遺跡の事例を合わせると厚真川上流域では縄文時代後期初頭頃（約 4000 年前）に大型地震が発生し、直線距離で約 1.2 km 離れた 2 地点で地滑りが起こり、上幌内モイ遺跡では一時的に厚真川が堰き止められ「ダム湖」が形成されたことが推測される。自然災害イベントに関する事例は今後の調査で増加することも考えられ、引き続き注意して調査を行いたい。



図Ⅰ 上幌内モイ遺跡周辺の地滑り地形



図Ⅱ 上幌内モイ遺跡 T₁ 面断面図（厚真町 2009a より抜粋）

引用・参考文献

厚真町 1986 『厚真町史』

厚真町 1998 『増補 厚真町史』

厚真町教育委員会 2001a 『鯉沼 2 遺跡』 厚真町教育委員会

厚真町教育委員会 2001b 『豊川 1 遺跡』

厚真町教育委員会 2004 『厚幌 1 遺跡』

厚真町教育委員会 2005 『鯉沼 3 遺跡』

厚真町教育委員会 2006a 『上幌内モイ遺跡 (1)』

厚真町教育委員会 2006b 『鯉沼 3 遺跡 (2)』

厚真町教育委員会 2007a 『上幌内モイ遺跡 (2)』

厚真町教育委員会 2007b 『鯉沼 3 遺跡 (3)』

厚真町教育委員会 2009a 『上幌内モイ遺跡 (3)』

厚真町教育委員会 2009b 『ニタツプナイ遺跡 (1)』

厚真町教育委員会 2010a
『厚幌 1 遺跡 (2)・幌内 7 遺跡 (1)』

厚真町教育委員会 2010b
『富里 2 遺跡・幌内 5 遺跡 (1)・ニタツプナイ遺跡 (2)』

厚真町教育委員会 2011 『オニキシベ 2 遺跡 』

厚真町教育委員会 2013a
『ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡』

厚真町教育委員会 2013b 『オニキシベ 5 遺跡』

厚真町幌内自治会 1997 『開基百年 幌内のあゆみ』

厚真村 1956 『厚真村史』

厚真村郷土研究会 1956 『厚真村古代史』

出穂雅実 2006 「第Ⅲ章第 2 節 ジオアーケオロジー」
『上幌内モイ遺跡 (1)』厚真町教育委員会

井上 巖 2006 「第Ⅳ章第 4 節 上幌内モイ遺跡出土土器
の胎土分析」『上幌内モイ遺跡 (1)』厚真町教育委員会

小嶋 尚・小野有五 他 2003
『日本の地形 2 北海道』東京大学出版会

亀井喜久太郎 1956 「厚真出土の土偶」『先史時代 3』
先史学同好会

合地信生 2009 「第Ⅶ章第 9 節 厚真町上幌内モイ遺跡
出土縄文土器の胎土分析」『上幌内モイ遺跡 (3)』
厚真町教育委員会

早田 勉 2006 「第Ⅳ章第 1 節 上幌内モイ遺跡後期
更新統の層序とテフラ」『上幌内モイ遺跡 (1)』
厚真町教育委員会

田近 淳・大津 直・八幡正弘 2004
「第Ⅴ章第 5 節 厚幌 1 遺跡の地すべり堆積物」
『厚幌 1 遺跡』厚真町教育委員会

苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1996
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1987
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1990
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター 2002
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅶ』

野澤 謙庵 1692 「蝦夷記」『續々群書類従第九』
國書図書刊行会

花岡正光 2004 「第Ⅴ章第 4 節 厚幌 1 遺跡の完新世
テフラについて」『厚幌 1 遺跡』厚真町教育委員会

(財)北海道埋蔵文化財センター 2003
『厚真町浜厚真 3 遺跡』北埋調報 186

益富 壽之助 1987 『原色岩石図鑑』(全改訂新版)
保育社

松浦武四郎・吉田常吉 1962 『蝦夷日誌 上 東蝦夷日誌』
時事通信社

松浦武四郎・秋葉実・高倉信一郎 1985 『戊午東西蝦夷
山川地理取調日誌』中 北海道出版企画センター

松野久也・石田正夫 1960
『1:50,000 地質図幅説明書 早来』北海道開発庁